

学校評価委員会 議事録

1. 日時 2018年6月21日 13:00～15:35
2. 場所 日産愛媛自動車大学校 ミーティングルーム
3. 参加者

外部評価委員： 業界団体代表 愛媛県軽自動車協会 専務理事 齋藤 眞一 様
販売会社代表 愛媛日産自動車(株) サービス保険グループ 課長 兵頭 信介 様
高等学校代表 松山聖陵高等学校 進路指導課長 新田 睦 様
保護者代表 櫻木 康博 様 (15期一級自動車工学科在籍)
卒業生代表 大協車輛(株) 社長 藤坂 定生 様 (10期自動車整備科卒)

学内評価委員： 校 長 分部 庸子
総 括 高橋 潔
室 長 高須賀 啓志 広報担当
科 長 西浦 進一 一級自動車工学科担当
事務局 松村 正基

学校評価委員会内容

- 1) 校長挨拶
- 2) 委員紹介
- 3) 校内見学
授業内容・実習施設等を西浦より説明
- 4) 学校評価説明・質疑応答

4. 学校評価委員会議事

1) 定数確認・委員長選出

委員総数9名・欠席者なしで、過半数の出席があるため委員会が成立したことを確認。委員長選任にあたり、学内評価委員より高橋委員を推薦し、全員の賛同により承認。書記係に総務課武市を任命し、全員の賛同により承認。

2) 学校評価委員会説明資料（基本情報編）の説明

校長より以下の項目について説明

- ① 日産校の理念・ミッション・教育方針
- ② 日産校の組織
- ③ 日産校の中期計画
- ④ 愛媛校の実績

意見：(新田) 高卒の就職状況が良くなっているため、進学でなく就職へ流れる高校生が多い。

(分部) 専門学校での資格取得が生涯賃金増へつながる事や、各種奨学金を用意するなどし、入学者増へつなげたい。

(新田) 入学者にとっては、学費・学生寮がネック。自宅から通える市内学生も入寮しないといけなないので、入学を躊躇する生徒もいる。他メーカー校は寮費無料等様々な対策をしているので、それを越えるメリット・魅力がないと、入学者獲得は難しいのではないかと。進路課としても、日産校を勧め難い。奨学金や、プラスアルファの特典をさらに検討すべき。

(藤坂) キャリアアップやリスタートが目的の、社会人からの入学者もいる。これらの獲得にも力を入れてはどうか。ただし、高卒者との年齢差の面でも、やはり全寮制はネックになるのかもしれない。

(高須賀) 社会人入学者には、国からの給付金等も充実しているため、これらをうまく利用して入学につなげたい。今年度も給付金を利用しての入学者が1名いる。ただし、今の募集活動は高校生に特化したもので、社会人を入学へつなげる明確なルートが確立されていない。これから検討が必要である。

3) 自己点検・自己評価報告書の説明

学内評価委員より以下の基準項目について説明。各項目ごとに意見・質問を求める。

【基準1 教育理念】

教育理念・目的・育成人材像は日産学園全体としての教育を展開しているため特に問題はないと考えている。メーカー校として、変化する業界のニーズにいち早く応えていくために、常に将来を見越した人材の育成構想を描いている。

意見：特になし

【基準2 学校運営】

学校運営については、個人立最後となったが特に問題はないと考えている。業務効率化のための情報システムは既に導入されているが、新しいツールの登場とともに今後さらに改善を進めていく。特に学生に対する教育情報などの提供が挙げられる。

意見：特になし

【基準3 教育活動】

授業は現在の実施状況の評価や国家資格の要件、企業ニーズの変化により年々見直しており、より実践的な知識・技術習得のため、キャリア教育の充実やインターンシップなどの推進に力を入れている。

授業評価の実施・評価体制が十分ではなく、教科ごとの学生授業アンケートが実施できてい

ないことや、各授業の状況把握・評価及び改善のアドバイスができていないことを認識している。その中でも、日産他校への相互訪問で授業聴講・意見交換をして、授業改善に努めてはいる。今後は授業アンケートを実施し、分かりやすい授業改善に努めたい。また、管理監督者層だけでは、工数的な問題もあり十分に授業の状態が把握・評価できているとは言い難いため、一般教員の間でも、ベテラン・若手間で同様の指導ができるよう検討する。

意見：(兵頭) 他校への相互訪問等で意見交換をして積極的に授業改善に努めてほしい。

【基準 4 教育効果】

退学率については、限度目標を定めてはいるが、目標ありきではなく、退学者を出さないことを目標に、教職員は一人ひとりの学生の日々の育成・指導を行っている。育成の活動はきちんとやる中で、前向きなモチベーションをどう持たせるかが教育の課題であり、そのための教員の指導力向上も図っていく必要がある。また、学校・寮での情報を全員が共有化できる環境を構築するよう努めているが、今後は学校全体の課題として取り組んでいきたい。

意見：特になし

【基準 5 学生支援】

学生相談については、現在のところ専用カウンセラーの配備をしていないため、学生相談は担任を中心に対応している。今後は専用カウンセラーの配備を検討したい。

課外活動については、正規のクラブ等がないため、学生からの活動要望があるときにその都度費用を負担している。ボランティア活動は、地域等から要請があれば有志で参加している。地域住民・他学校との交流を推進する活動には今後さらに支援をしていきたい。

卒業生については、校友会・同窓会は組織化されておらず、随時同期の仲間で懇親会を開催している。創立 40 年を超えたということもあり、同窓会組織を立ち上げられるよう検討したい。

業界との連携による卒業後の再教育プログラムについては、卒業後に資格教育を再度行うプログラムは存在していないが、国家一級取得を目指す卒業生に対しての再教育プログラムを準備中である。

意見：(兵頭) 卒業後の再教育プログラムは整備科・工学科ともにあるのか。

(高橋) 工学科は昨年度実施。整備科については、今後プログラム策定を検討したいが、国家一級の合格率が下がっているため、今は工学科が最優先である。

【基準 6 教育環境】

防災に対する体制について、安全第一で非難することを優先しているが、寮生に対する防災グッズの備蓄も検討している。また、実習棟・学生寮の耐震工事を早期に実施すべく検討中である。

意見：特になし

【基準 7 学生の募集と受け入れ】

学生募集は例年に増して実施したが、自動車整備士を目指す生徒が減少していることや、自動車業界の魅力作りが全般に弱かったことが要因で、応募者の増加に繋がらなかった。応募者数は自動車業界への就職者数に直結するので、学校・販社一貫教育のメリットから、生徒に対し販売会社推薦入学制度の紹介を実施している。入学して良かったと思ってもらえる学校づくりに努めたい。

意見：特になし

【基準 8 財務】

個人立最後の財務となったが、累計の消費収支差額が常にプラスの状態を維持できていることに安堵している。今後施設の老朽化に伴う改修費用が増加することや、募集環境がさらに厳しくなっていくことも予想される中で、募集目標の達成・経費の有効活用（教育充実への費用確保・他の経費削減）が財務の健全を維持するために一層重要な要素となってくる。

予算管理体制を構築し適正に実施するために、各活動ごとに予算を立て月次フォローするよう努めたい。

意見：特になし

【基準 9 法令等の遵守】

学校教育法・専修学校設置基準・一種養成施設認定規則等の、該当する法令には準拠しており、適切な運営が図られている。

情報セキュリティや個人情報保護については、システムの保護・教職員への周知の両面で徹底している。しかし、ネット社会の現在では、SNS等で校内から容易に情報が流出しやすい環境にあり、学生の啓蒙に力を入れる必要がある。

意見：特になし

【基準 10 社会貢献】

地域密着の学校を目指し、ボランティア・清掃活動の参加等、社会貢献には力を入れている。地元企業・関係団体からの要望があれば、保有施設・設備の貸出や、当校で可能な講座の提供を行っている。

地域に対する公開講座・教育訓練については将来の課題と考えており、職員に余裕ができた段階で検討したい。

意見：特になし

（校長）今年度は法人化初年度なので、学校としての仕組み作りを強化したい。本日のご意見を真摯にうけとめ、学校改善に努めていく。